

国際ロータリー第2500地区第6分区

帯広東ロータリークラブ会報



2018-2019 年度

帯広東ロータリークラブ

会 長 益子 裕之

幹 事 池田 誠

メディア委員長 加藤 雄樹

「前進への挑戦」

第1626回例会

平成30年9月18日(火) 於 ホテル日航ノースランド帯広

■創 立: 1984年6月15日 ■認証: 1984年6月18日 ■例会: 毎週火曜日 12:30~13:30

■事務局: 帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.0155-25-7347 ■会場: ホテル日航ノースランド帯広

y.kato



2018-2019 年度 国際ロータリーテーマ

【インスピレーションになろう】

2018-2019 年度国際ロータリー会長

バリー・ラシン

ガバナーテーマ

【行動するロータリー、つながるロータリー】

国際ロータリー第2500地区 ガバナー

細川 吉博

月間テーマ

【基本的教育と識字率向上月間】

【ロータリーの友月間】

◎起 立

大塚正昭 副SAA

◎友情の握手

大塚正昭 副SAA

◎点 鐘

益子裕之 会 長

◎開 会 宣 言

大塚正昭 副SAA

ロータリーソング (我等の生業)

◎ゲスト紹介

益子裕之 会 長

RI第2500地区ガバナー

細川吉博 様

RI第2500地区第6分区ガバナー補佐

曾根 一 様

RI第2500地区副幹事

深井弘美 様

RI第2500地区副幹事

前川 学 様

◎会 食

ります。以上会長挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

会務報告

池田 誠 幹事

◎RI第2500地区大会(帯広)開催のご案内

日程 平成30年9月28日(金)~9月29日(土)

場所 帯広市民文化ホール

《大会1日目(28金)》

記念親睦ゴルフ大会 8:30~

帯広国際カントリークラブ

《大会2日目(29土)》

登録受付 8:30~

帯広市民文化ホール

本会議(午前の部) 9:00~12:00

帯広市民文化ホール

本会議(午後の部) 13:00~17:30

帯広市民文化ホール

大会記念大懇親会 18:00~19:30

ホテル日航ノースランド帯広

本日国際ロータリー第2500地区ガバナー細川吉博様より志を頂戴しております。ありがとうございます。

胆振東部地震義援金ということで、先日FAXでご案内させて頂きましたが、21日までとなってましたが25日の例会まで、お申し受けいたしますのでよろしくお願いいたします。

また、本日こちらの義援金の方、福岡会員の方より多額の義援金を頂戴しております。ありがとうございます。

プログラム

理 事 会

【講 話】

RI第2500地区ガバナー 細川吉博 様
皆さん改めましてこんにちは。

いよいよ本当にクラブ訪問も大詰め、無事に遠いところも事故が無く回って来ることが出来ました。皆様方大変なご指示があったので感謝しております。

先程点鐘した鐘でございます。日本のロータリーの100年の鐘でございます。1920年に今日のロータリークラブが開設されたということでございます。2020年が東京ロータリークラブ100周年ということでございまして、その年を日本のロータリー100年にしようということで、いろいろな企画をしております。全国34地区にこれを配ってガバナーが公式訪問の時に持参して、会長さんに点

会長挨拶

益子裕之 会長



皆さんこんばんは。今日は細川ガバナーをお迎えして、私は今日4時から会場入りしております、少し早く来すぎたかなと思っておりまして、4時半よりガバナーと親しく懇談をさせて頂き、クラブ協議会も無事終了することが出来ました。我が家のカレンダーにはこの日に大きな丸印がついておりまして、私にとってもこの半年中で一大イベントだということで、大変緊張しております。

先週は職業奉仕で東洋印刷さんの会社訪問、大変素晴らしい体験をさせて頂いたことを重ねてお礼を申し上げます。

今日は挨拶は短くということでS Aの方から伺ってお

鐘して頂くことになっております。これは今年と来年2年続けるということで、2020年の11月に東京で多分ロータリー研究会があるときに、これを使って何だかなの100周年のイベントをやるということでございます。

先程義援金のお話がございましたけれども、西日本の豪雨の災害におかれまして、この地区から多額な義援金を頂いております。ただ2500地区は大きな災害も無いということで、丁度RI会長代理の晩餐会の時に2510のガバナーもいらっしゃるものですから、そこで会からということで渡して頂こうとしているのですが、2510におかれましてこの地震でロータリアンが被災したということは無いと聞いておりますので、そういった意味で大きな怪我とか無くて良かったです。

私は今日皆様にバリー・ラシン会長がいらっしゃる、インスピレーションになるのインスピレーションと、もう一つ職業奉仕について私なりに考えを話させて頂きたいと思っております。

親睦と奉仕ということでございます。ロータリーの大きな活動の大きな2つの車輪として、私達は親睦と奉仕の中でロータリー活動をさせております。親睦ということでいいますと、20世紀初頭の近くに起きた街の荒廃・人心の荒廃等が見られ特にその中で商業道德の欠如というのがございます。商業道德の欠如というのは、商い上で騙された者が悪いんだ騙した者勝ちなんだ。というのが多々あったということでございますけど。ポール・ハリス以下4名の者がそうではないと、お互いに信頼出来る公平な取引をやりたい。それとそういう仲間の中で信頼関係に発展出来るようなサークルを作りたいということが、ロータリーに発展したといわれております。

そういった意味でいいますと、当初は会員同志の取引の場だったのがロータリーなのですけど。そういう形で集まってきた人間・友情のみならず人助けに対しても多くの時間・才能またはお金等をかけていたということでございます。その中でロータリーの中で奉仕というのが芽生えてきたといえます。これはあらゆる人が手を取り合って、自分を越えた素晴らしいことを生み出すといえます。ロータリーの奉仕これは人々の人生や地域社会を変えるものといえると思います。またロータリーはその活動からボランティア団体といわれております。ロータリーのボランティアという意味では、私達ロータリアンが寛容で深い道德、そして会員の親睦とくに子供たちへの社会奉仕から始まっていますけど、そして世界平和に対しまして私達は多くの時間や労力を注いできたといわれています。そういったロータリーのボランティア活動で多くの人から称賛を受けてきたのです。これは今のロータリアンも同じかもしれませんが、どこことなく社会に知られずに良いことをすることは何か会員の慣例みたいなことがあったといえます。そしてそうはいっても、立派な行為やボランティア活動が、私たち地域社会や世界を良い場所にする団体ということで、ロータリーは認知されていたといえます。

ロータリーの奉仕というものは、ひとり一人のロータリアンの力が集まることとあえて言わせて頂きます。どうということかといえますと、私たちロータリアンは個人

奉仕なのです英語でいえば「I serve」という形でございます。ライオンズクラブは「We serve」なので団体奉仕でございます。

そういうことは別にして、私たちひとり一人のロータリーその私たちひとり一人の「I serve」は何かといえますと、私はこれこそが職業奉仕ではないかなと思っております。ロータリーの奉仕は人々の人生・地域社会・世界を変えるものともいえます。ただそうはいってもロータリーの現実というものもございます。特にこの2500地区に於いては、人口減少・少子高齢化というのは本当に私たち身に迫り来る問題でございます。

そういった中で奉仕の活動をする人間だけが、どんどん増えていくということでは、決してございません。そういった意味でどこの地区に於いても、奉仕活動に携わる人間が少なくなってくるということがございます。ただ多くのクラブに於いては親睦を深め、またいろいろな奉仕活動することによって、メンバーの維持獲得に努力されているところは、本当に皆さんのクラブでやってらっしゃいます。メンバーの数が少ないということはそれ自体がすぐ悪いとはいいいませんが、やはり私たち奉仕活動をしていく中でその限界・マンパワーいろいろ経済的な意味での限界もございまして、ロータリーというのは親睦の機会であるというならば、その親睦の制限にもなるのかなと思います。

そしてもう一つロータリーの現実として、会員の構成ということがございます。高齢化ということを一言でいう人もいるかも知れませんが、決して高齢化が悪いと思ってません、いろいろな意味で人生においてもロータリー歴の経験においても、多大な経験をされている方というのはその中で大切だと思いますし、そういう方がいらっしゃるからこそ私たちがロータリー活動が出来ると思います。ただロータリーの5年後10年後を考えるとすれば、やはり若い方々もメンバーとして加わることによって、これからロータリーが継続発展するためにも、是非若い会員を入れていくということも1つのクラブとしてやって頂きたいと思っております。

またいろいろな意味で、女性の社会的な意味での役割が大きくなっている中で、ロータリーの中でも是非女性会員につきまして、皆さんで検討そして加入して頂くような形にして頂きたいと思っております。

またロータリーの現実として、地域から知られていないということがございます。ロータリーって知ってますかといえますと、聞いたことがないという人が4割、名前だけ知っている人が4割、ある程度知っている人が2割というアンケートございました。ただある程度の2割においても、本当にロータリーのことを知っているのかというと、いささかどのようなものかと私は思います。そして何よりもロータリアンである新入会員がロータリーのことをよく知らない可能性もある、つまりロータリーに入って見たけれどもロータリーってこんなものか、見切ってしまうとロータリーを離れていってしまう。これは大変残念なことで、そういった意味でのきちんとロータリーを知って頂く必要があるのかなと思います。

私たちロータリアンとして、やはり1つには公共イメ

ージ向上、つまりロータリーのことを多くの人に知って頂く必要があると思います。これによりまして私たち、もちろん私たちの活動を見て頂いてロータリーに加わる人が増えて頂くのが第一ですけど、そこまでにならなくてもいろいろな意味でロータリーのサポーター、ロータリーの良き理解者になって頂く可能性もあると思いますので、是非公共イメージを向上していきたいと思います。

今年の言葉の中で「世界を変える行動人 (People of Action)」というのが出て来ております。けして何か特別な人をいっているわけではありません、私たちロータリアンは個人奉仕なのです。私たちひとり一人がそれぞれ奉仕し、それが力を合わせているんなことにチャレンジすることによって、世界を変える私たち自身が行動人であるということを是非認識して頂きたいものだと思っております。

ロータリーにはいろいろなプログラムがございます。1つにはロータリー財団がございます、ロータリー財団は1917年アーチ・クラフによりまして、世界で良いことをしようということで誕生いたしましたけど、この目的はロータリアンが健康状態を改善し教育への支援を高め貧困を救済することを通じて、世界理解・親善・平和達成出来るようにすることというのが財団の目的です。その中でプログラムとしていろいろございます、地区補助金・グローバル補助金・ポリオなどがございます。

ポリオについてチョット話させていただきます。

ポリオプラスということで、1979年に最初31プロジェクトということで、フィリピンの600万人の子どもの予防接種から始まっております。85年にポリオプラスプロジェクトとして開始され、今までに25億人以上の子どもの予防接種を世界で行っております。そして多くの成果を上げているといえます。皆様方の前ではあと少しあと少しというのがポリオに対しての現実かと思えます。実は今年も今の段階でたしか14名のポリオの発症がございました。あと少しがなかなか無くならない、世界で紛争があってその紛争の地域に、私たちポリオのワクチンをその子ども達に持って行けないのが、ポリオが無くならない原因だといえます。私たちロータリーが目指している世界平和というのとポリオというのも、密接に関連していると思っております。

今までポリオプロジェクトを始めてから、25億人以上にこのポリオのワクチンを渡しています。ポリオというのは運動神経麻痺です。かかりますと足が動かなくなったり、動かなくなりますから骨も成長しませんから、足が短くなったりいわゆる身体障がいの状態になります。ポリオをやることによって、実は今まで世界で1,700万人の身体障がい者を救ったと発症しなかったといわれています。またポリオの運動神経の麻痺が頭の方に近くなりますと、足だけでは無く呼吸する筋肉、呼吸筋までできませんと呼吸できませんから、呼吸ができないのは死を意味するわけなのですね、いままでポリオプラスによりまして、実は150万人の子ども達の命を救ったといわれています。

ロータリー特徴のもう1つは青少年奉仕というものがございます。当初は障がい児事業つまりどういうことか

といえますと、装具を作ったりリハビリをしたりをしたりということから始まってきているわけなのですが、今現在では青少年活動というのに取り組んでいております。その中にはインターアクト・ローターアクト等がございます。特にローターアクトにおきましては、帯広で5クラブで提唱してローターアクトクラブがございます。さすが一生懸命いろんな意味で活動されていらっしゃる。ロータリーの精神を受け持った若者たちが、活動することによって将来にいろいろな意味での奉仕の活動をしたり、本当の意味ではロータリアンになってもらえればありがたいですけど、ロータリアンにならないまでも奉仕の気持ちを是非将来に渡って持ち続けて頂きたいと思っております。

そういった意味でロータリーの中の現実というものがございます、私たちが直面する課題に対して、勇気と希望と行動を持って正面から立ち向かっていくという、情熱を持つ必要があると思っております。今年の益子会長さんのクラブのテーマと似ているのかなと思っておりますし、そういう情熱を持つことによって私たち自身の中で、前向きな変化というものが起こってきます。つまり何か問題があったとしても、それを遠ざけて逃げてしまうのではなくて、私たちなら出来るんだ私たちはやるんだという気持ちが、私たちの心の中にわき起こってそれ自体がインスピレーションだとバリー・ラシンー会長はいっていると思います。私たちインスピレーションをしよう、これは私たち自身の前向きな変化、私たち自身の情熱を持つことと思っております。

ロータリーの中ではビジョン声明というのを発表しております。私たちロータリアンを世界で地域社会で、持続可能な良い変化を生むために人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。是非このような形で私たちもロータリーの活動をしていきたいものだと思っております。インスピレーションこの情熱を皆さんで持っていきたいものだと思っております。その意味で私は今年の地域の方針を「行動するロータリー、つながるロータリー～ロータリーの未来を考えよう～」とさせていただきます。ロータリアンはけして、評論家でも理論家でもございません。私たちが決めたことクラブで決めたこと地区で決めたこと、是非皆さんの前向きな変更を持ちながら行動して実現していきたいと思っておりますし、私たちひとり一人の力は小さくてもそれが集まることによって、より大きなことが世界に対して影響するというのを是非皆さんで認識したいものだと思っております。

これ自体は私たちが、ロータリーの未来を考えてると私は思っています。その中でテーマを項目別に出させて頂きました。特にロータリー賞を各クラブが目指すということでございます。ロータリー賞はこれまでのロータリー会長賞という形でございまして、ロータリーの3つの推薦順位とそれぞれの1つずつを達成することによって、ロータリー賞を申請できます。是非皆様方におかれましては、インターネット上の「My ROTARY」を是非登録して頂いて、皆様方の中でこれを是非見て頂きたいと思っております。「My ROTARY」の中ではいろいろなロータリーの情報等も載っておりますので、是非ロータリーを知

る上でもやっていただきたいのですけど、逆に1つあれなのはロータリー賞を目指す最低限度の条件が会員の6割以上が「My ROTARY」を登録しているのが条件でございます。ですから是非皆様方で登録をして頂きたいと思っております。

また地区内で新クラブということで、人数いないのに何で新クラブだと話になりますけど、私はローターアクターは30歳を終えた段階で、そこで奉仕活動が終わるのではなくて出来ればクラブの柔軟性をもたず、つまり衛生クラブなどの形で彼らが活動する場が持てにないかということ、今いろんな意味で提唱させて頂いております。幹事会等で話が出るかと思っております、是非このへんのところも検討していければと思います。

地区事務所のあり方の調査研究についてなんですけど、これは実は2年前に決議されております。ただこのときに地区事務所とガバナー事務所というものが、内容がごっちゃになったことがございます。私は地区事務所の固定化というのは、必要な所は必要だと思っております。財団のグローバル補助金の資料等は6年保管という形になったり、米山等も学生さん2年間ですから、そういう資料の保管というのもございます。そういうものに対しまして、地区事務所というのをきちんと造って、管理していったほうがいいのかなと、それとは別にガバナー事務所が必要なかと思っております。これ以上の経費を2500地区の皆さんにおかけするわけにはいきませんので、そういった意味も含めまして地区の中に戦略計画委員会というのがございます。ここで十分議論して方向性は出ているのですけど、今年度中に何とか地区事務所という形をつくりたいと思っております。

職業奉仕について話したいと思います。

皆さんいろいろな職業をされていらっしゃると思います。先程もいいましたポール・ハリスが憂いたこといろいろなことを考えていたときに、私たちは奉仕の理念を考えなくてはいいないかと思っております。奉仕の理念とは何かといいますと、相手の方の喜び幸せを自分の喜び幸せとできるかだと思います。商いの中で騙された者が悪いんだというのではなくて、相手にとってもいいこと自分にとってもいいこと、自分にとっても喜びとすることが私は奉仕だと思います。その理念をもって今までロータリーは来ているわけです。ロータリーの目的の中には、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励しこれを育むことであると思っております。意義のある事業というのはお互いにとって、素晴らしい有益な事業であるといえます。そういった意味で私たちが職業理念・職業倫理を考えるのであれば、その倫理という言葉がどういうことかといいますと、法例遵守にプラスして道徳があるといえます。もちろん法例を守ることは当然なことなんですけど、そのところに道徳があるとそれは今言葉でいわなくてもきっと皆様方はそれをもって、いろいろな日々の職業活動をされているわけですから、こんなこといわれなくてもわかっているよということだと思いますし、私は皆様方がこれがあるからこそ、今ロータリアンとしてこの場で一緒に例会をもっていると思っております。この倫理の中での道徳をもつということがとても大切で、それにとま

う職業奉仕ということになると思います。

特に四つのテストは、私たちを導いてくれる大きなテキストになると私は思っておりますので、是非クラブの中でも四つのテストを検討推進して頂ければありがたいと思っております。

そういった意味を通じまして、職業奉仕というものは職業サービスを年頭に、相手の立場に立った職業活動を行い相手の喜びを自分の喜びとしながら、職業人としてのより高い倫理の向上に努め世の中に広めていくこと、これが職業奉仕だと思います。なんで今職業奉仕が出てくるんだと話になりますと、R I はたぶん来年辺りに職業奉仕という概念を無くす方針できております。つまり職業奉仕が無くなると、職業分類帳が無くなりますから、無職の方でも主婦の方でも会社の中では経営者で無くても、係長とか課長とかの役職であったとしても、皆さんがロータリアンになれるということになります。

そうなりますと、それこそ会員制のサロンクラブみたいな感じになってしまうのかなと思います。私たちロータリアンというのは、日本のロータリーに於いては東京にロータリークラブが出来たときから、私たちの中で職業奉仕を大切にしようということで、私たちロータリーでございます。職業奉仕が無くなってしまうのがいいのかどうか、是非その辺のところは皆さまの中でも、ご検討頂ければありがたいと思っております。

最後のスライドになります。これはロータリーの木といいまして、渡辺好政 R I 理事が作られたものでございます。私たちロータリーはロータリーの綱領、四つのテストそしてクラブ奉仕、その中では親睦がありお互いのクラブ員の助け合いがある、そして調和の奉仕もっとも良く奉仕するのがもっとも良く報いられるテーマをもって、それがロータリーに与えられた栄養だとするのであれば、私たちひとり一人の職業奉仕の実践・奉仕の理念がいろいろな意味で吸収されていて、社会奉仕になったり財団になったり青少年奉仕になったり、その活動がいかされているのではないのかなと思います。そしてそれらの奉仕に於いて花咲き実をむすんで、私にも奉仕の活動の輪に広がっていくと私自身思っております。ですから是非このロータリーのテーマを、大事にしながら私たちひとり一人の奉仕の活動を私たちロータリーの基本としながら、これから進めていきたいと思っております。

そのような形で本当に皆様方には、今日いろいろなお話をさせて頂きまして本当にありがとうございます。これからまた皆様方のクラブで皆様方自身が、この地域の中で奉仕の活動の輪をますます広げて活発になっていくことを御祈念致しまして、簡単でございますがガバナーとしての卓話とさせて頂きます。本日は誠にありがとうございました。

◎閉会宣言

大塚正昭 副SAA

◎点 鐘

益子裕之 会長

次回プログラム予定

青少年奉仕・RA委員会

9月25日(火)「ライラ報告会」